

そして、開校式を迎えました

平成24年2月。飯館村が建設費用の一部(建設費用400万円のうち175万円)を支援したドンニヤイ中学校の新校舎が完成しました。飯館村は依然混乱の只中にありましたが、何とか約束を果たすことができました。3年越しで多くの協力を得られたおかげです。知らせを受けて、菅野クニ教育委員(宮内)と村の職員が、開校式に駆けつけました。

開校式には、多くの村人が出席し、人々の健康や幸福を祈る儀式「バーシー」が、飯館村民のために行われました。また夜には、竹を切って作ったたくさん「竹灯」に火を灯して、飯館村の再生を静かに祈ってくれました。

異国の友達のために、「お互いさま」の気持ちで始めた活動でした。震災後は、何とか約束を果たしたいとの思いで継続していた活動です。その中で私たちもまた、たくさんの「お互いさま」を受け取っていたのです。

飯館村は、数えきれないほどの支援を国内外からいただきました。現在も、多くの方々に心を寄せていただき、応援もいただいています。ドンニヤイ村との交流は、震災以降いただいていた「支援」や、村が大切にしてきた「お互いさま」について、足を止めて考える機会ともなりそうです。

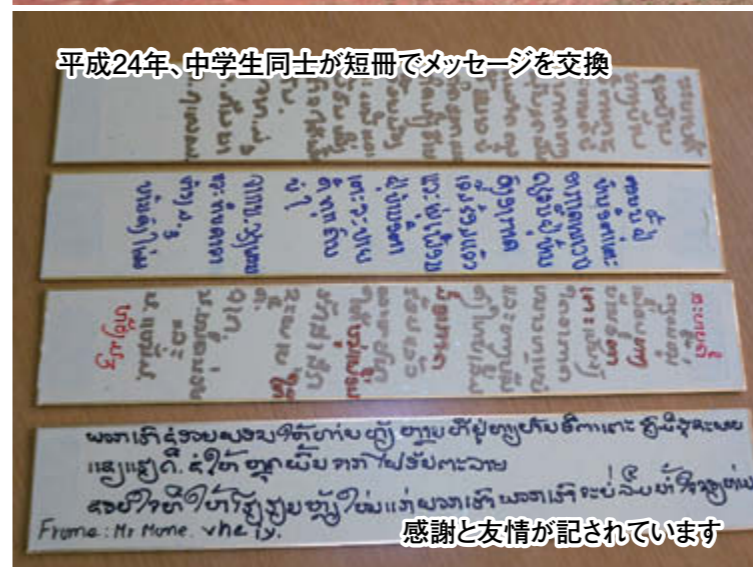
今回、飯館村を訪れたテオンさんは、長旅の疲れと緊張で、体調を崩していたそうです。しかしそんな素振りを見せることはありませんでした。テオンさんは、中学生に向けて、笑顔でこう話しました。「学校を建てていただいたおかげで夢がかないました。大変な状況の中でも思いを寄せ続けてくれた皆さんのことを、ドンニヤイ村は永遠に覚えていきます。ずっとずっと友達です」。

周辺の10村からも生徒が通うドンニヤイ中学校には入学者が相次ぎ、地域の中心基幹校となりました。テオンさんは帰国後、出前授業を行い、今回の交流を現地の子どもたちに伝えます。

開校式のひとこま。黒いこいのぼりには飯館から、赤いこいのぼりにはラオスから、子どもたちの寄せ書きがあります



平成24年、中学生同士が短冊でメッセージを交換



感謝と友情が記されています



開校式の夜。手づくりの竹灯で「まじい」のハートを灯してくれました

- 平成21年9月 小学校での出前講座
- 平成22年2月 教育長らが現地へ
- 平成22年5月 AEFAと覚書を締結
- 平成22年11月 ドンニヤイ中学校 建設着工
- 平成23年2月 英訳した絵本を現地に届ける
- 平成23年3月 東日本大震災
ラオスから寄付やメッセージが届く
- 平成24年2月 ドンニヤイ中学校竣工
開校式が行われる
ドンニヤイ村民が飯館村のために祈る
- 平成24年以降 入学者が増加。地域の基幹校に
- 平成28年10月 テオンさんが来村
飯館村役場と飯館中学校で、ドンニヤイ村からのメッセージを伝える

ドンニヤイ中学校は東日本大震災の翌年、平成24年に完成しました



「お互いさま」をありがとう